



## タンザニアポップアート 《ティンガティンガ》

「ティンガティンガ」は、1960年代初めにダニエルサラーム（タンザニアの商都）郊外で誕生した独特の絵画のスタイルで、創始者であるエドワルド・ティンガティンガ（1937～1972年）の名前に由来します。

元々は建築素材である合板に、塗装用のエナメル・ペンキを用い、小動物や精霊を大胆にデフォルメした構図と、鮮やかな色彩で描いたのが始まりです。

ティンガティンガの死後、弟子達が彼の精神を継承し、野生動物にとどまらず、タンザニアの自然、人々の日々の暮らしや伝統的信仰、歴史上の出来事などもモチーフにした独特の「ティンガティンガ・スタイル」を確立しました。1970年代以降、欧州で注目を集めるようになったこの絵画は、現在ではタンザニア固有の芸術、アフリカを代表するモダン・アートとして、広く世界に知られています。

ダニエルサラーム郊外にあるティンガティンガ共同工房では、才能にあふれ熟練した技術を持つ画家たちが今もなお活動を続けています。しかし、彼らの作品への対価は高くありません。駐日タンザニア連合共和国大使館およびギャラリー・タンザニアフィリアはティンガティンガ絵画を広め、才能に恵まれた画家たちを支援するネットワーク作りに励んでいます。